
2025年度(2026年3月期) 第3四半期決算

株式会社ダイヘン

2026. 2. 3

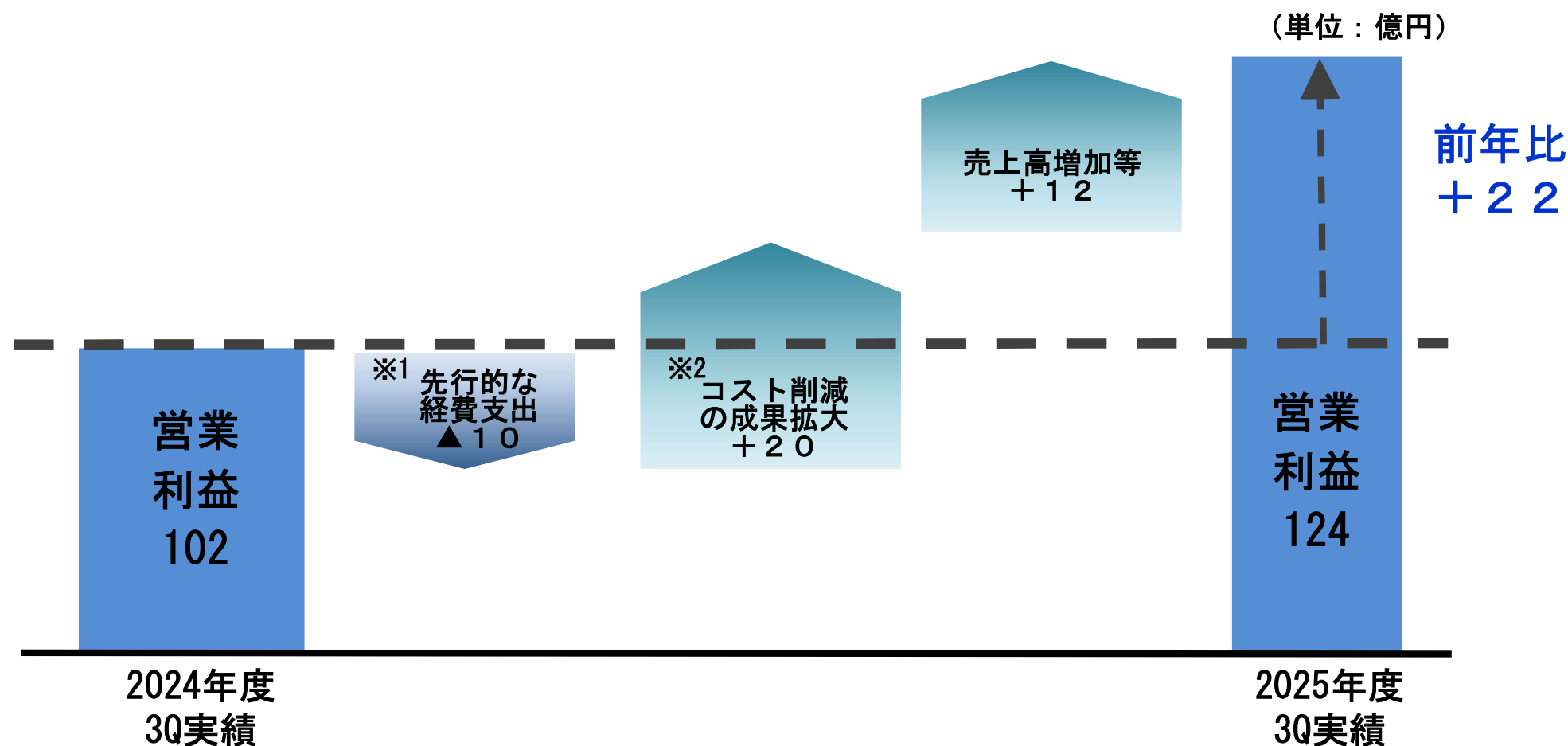
2025年度第3四半期業績

(単位：億円)

| | | 2024年度 2Q実績 | | 2025年度 2Q実績 | | 前年同期比 | |
|----------------------|----------------|----------------|----|----------------|----|-------|--------|
| | | ① | | ② | | ②-① | 増減率 |
| 売上高 | | 961 | | 1,052 | | +91 | +9.5% |
| 1 | エネルギー・マネジメント | 501 | | 539 | | +38 | +7.7% |
| 2 | ファクトリーオートメーション | 142 | | 152 | | +10 | +7.4% |
| 3 | マテリアルフローセンシング | 317 | | 360 | | +43 | +13.5% |
| 営業利益 | | 5.3% | 51 | 6.6% | 69 | +18 | +36.9% |
| 経常利益 | | 6.0% | 57 | 7.5% | 78 | +21 | +36.9% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | | 4.4% | 42 | 4.9% | 51 | +9 | +22.7% |

| | | 2024年度 3Q実績 | | 2025年度 3Q実績 | | 前年同期比 | |
|----------------------|--|----------------|-----|----------------|-----|-------|--------|
| | | ③ | | ④ | | ④-③ | 増減率 |
| | | 1,558 | | 1,634 | | +76 | +4.9% |
| | | 838 | | 866 | | +28 | +3.4% |
| | | 215 | | 226 | | +11 | +5.0% |
| | | 504 | | 541 | | +37 | +7.2% |
| 営業利益 | | 6.6% | 102 | 7.6% | 124 | +22 | +21.7% |
| 経常利益 | | 7.2% | 112 | 8.5% | 138 | +26 | +23.5% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | | 4.9% | 76 | 5.7% | 93 | +17 | +22.4% |

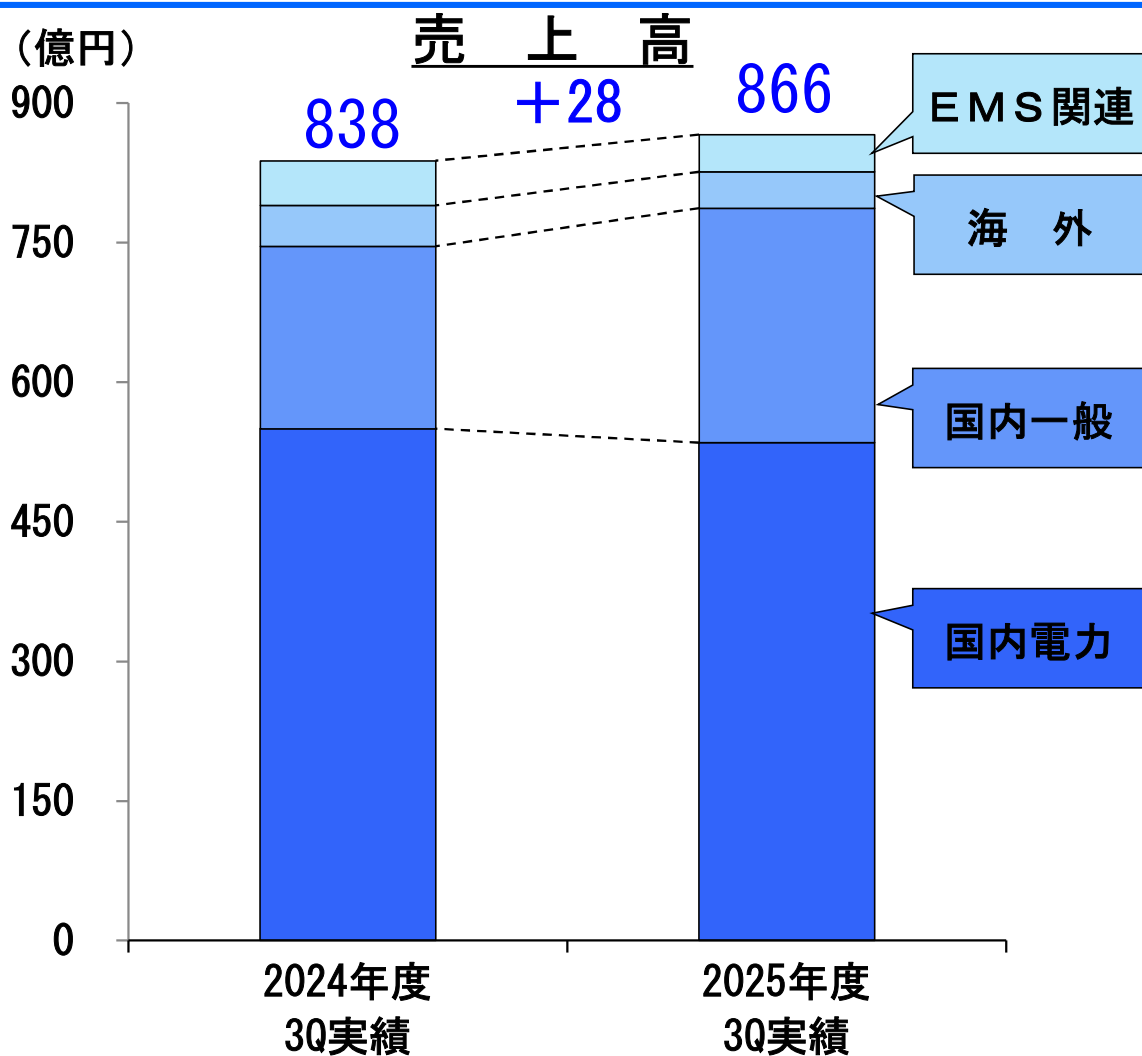
2025年度第3四半期 営業利益変動要因(前年同期比)



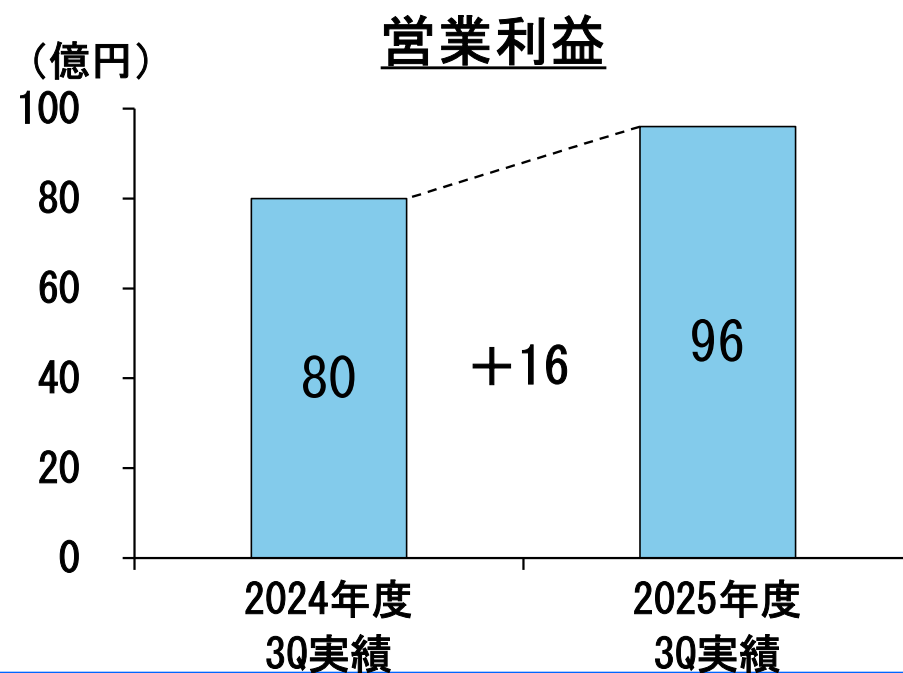
※1. 先行的な経費支出：開発費増強▲2、賃上げ他▲8

※2. コスト削減の成果：材料コストダウン +8、生産性向上+4、間接業務効率化 +8

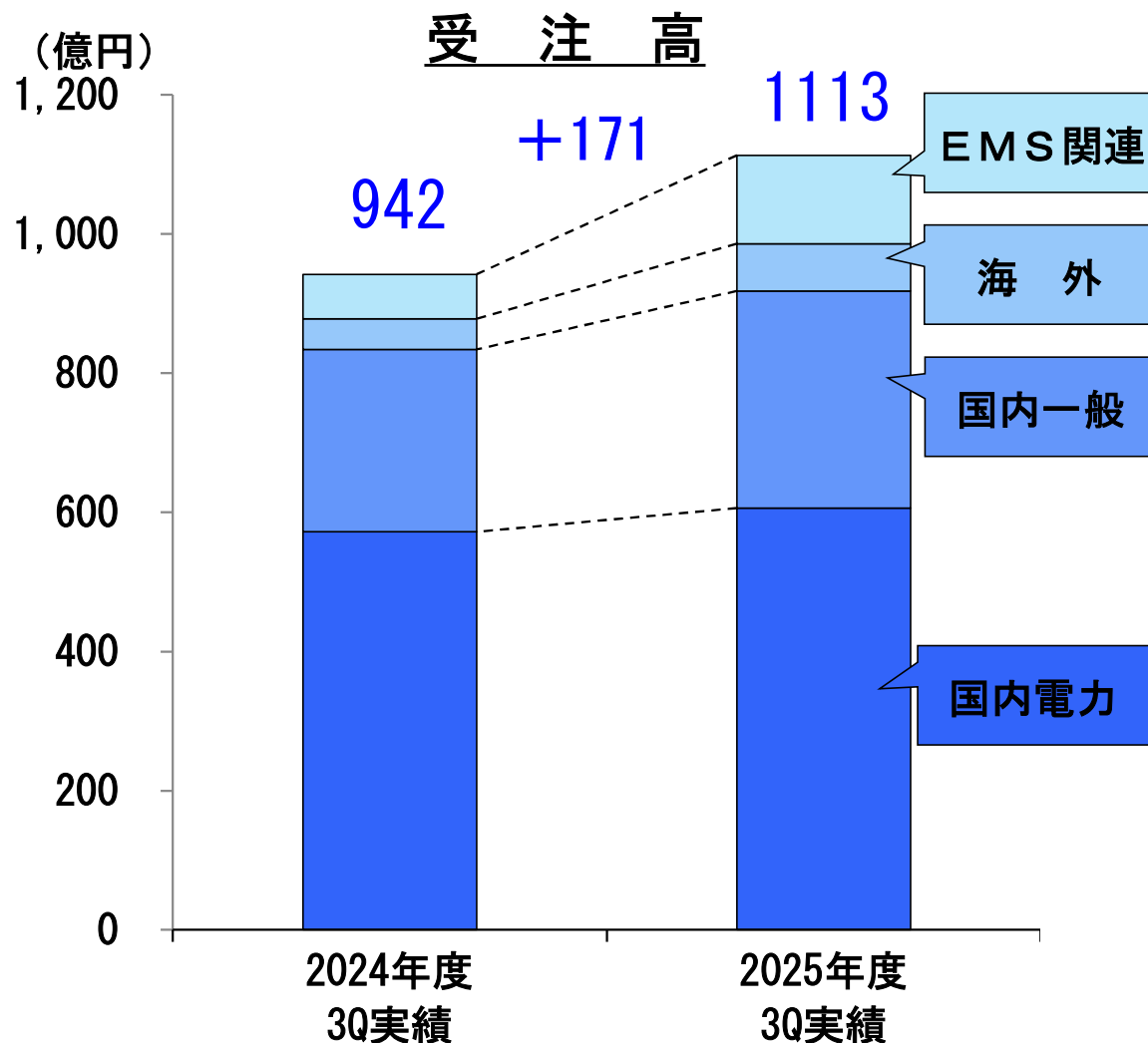
「エネルギーマネジメント」セグメント 売上高・営業利益



- ・ 再生可能エネルギー関連投資拡大やデータセンター新設等を背景とする受変電設備の需要増加により増収・増益

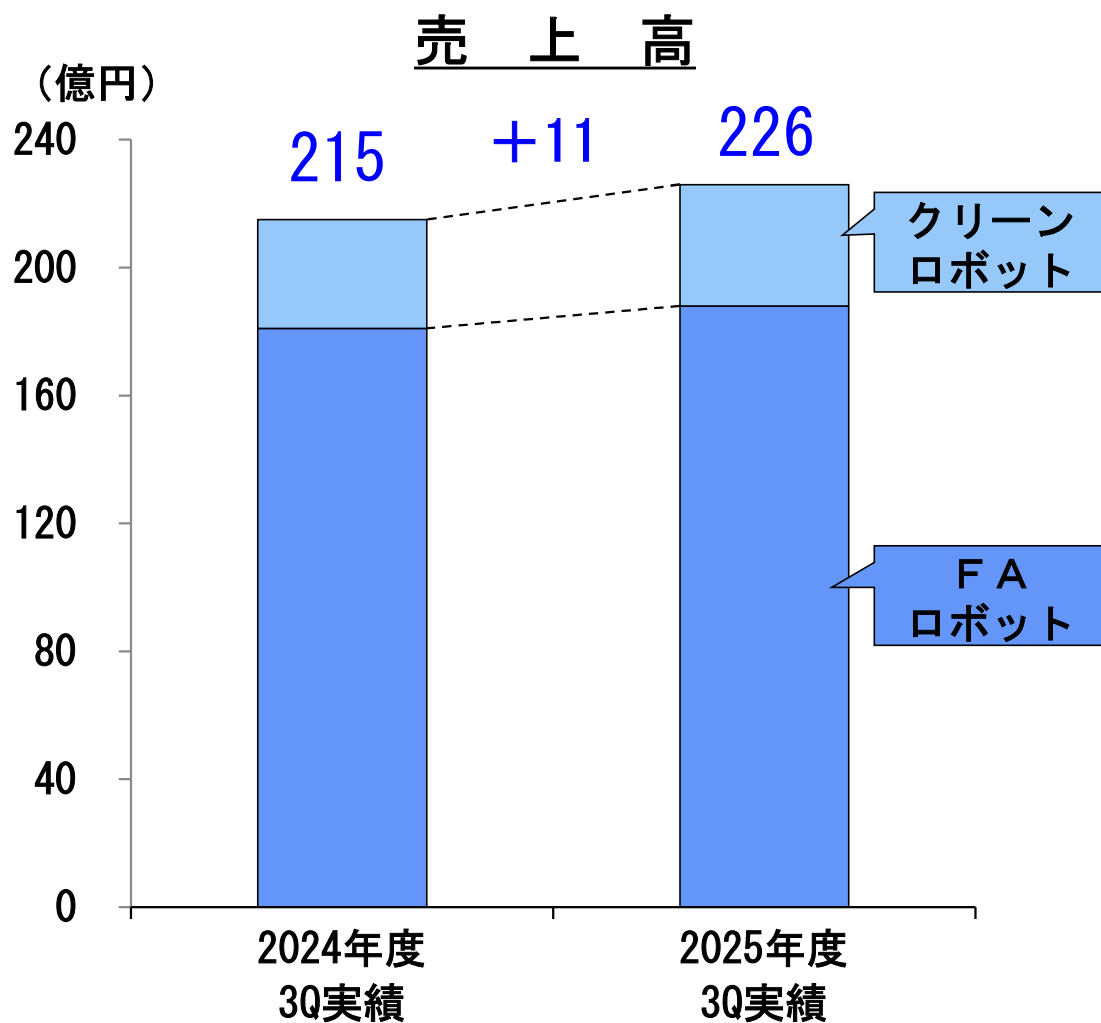


「エネルギーマネジメント」セグメント 受注高

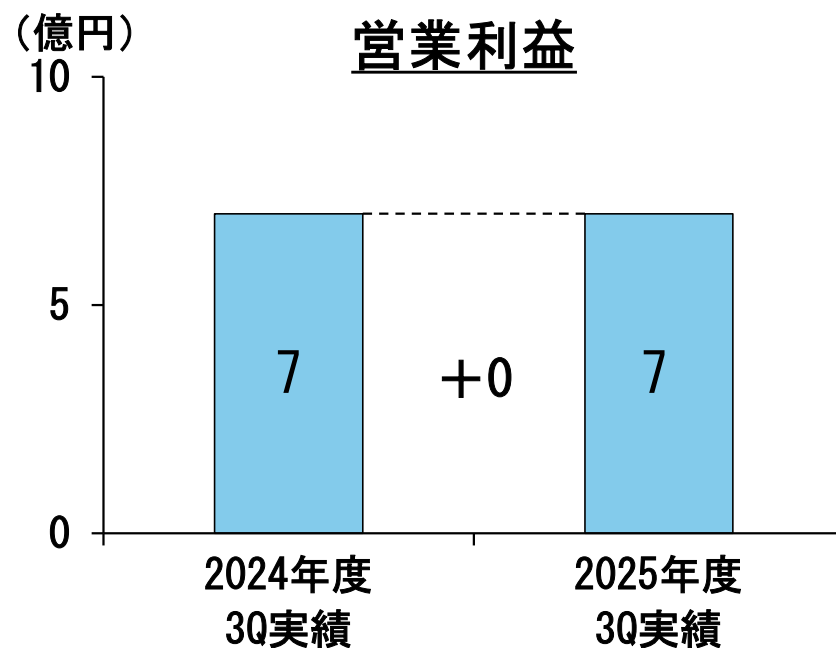


- ・ 国内電力は変電所向け大形変圧器が増加
- ・ 国内一般は再エネ関連投資やデータセンター向けに加え、2026年度の変圧器省エネ基準（トップランナー変圧器第3次判断基準）適用前の受注が増加
- ・ EMS関連は蓄電所案件が大きく増加

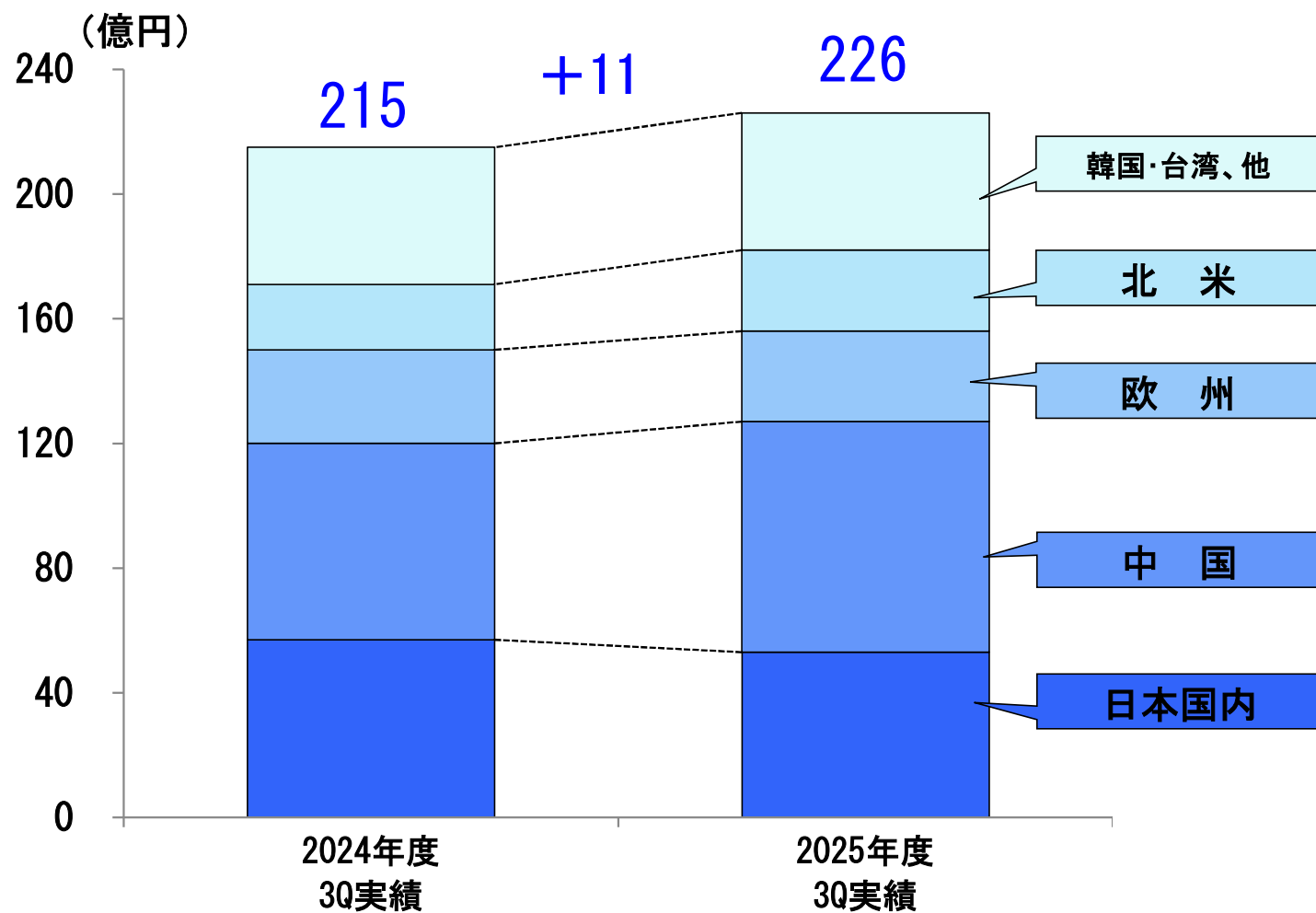
「ファクトリーオートメーション」セグメント 売上高・営業利益



- ・ 米国や中国での新規顧客開拓の成果により増加
- ・ 先行的な経費投入もあり利益は横這い

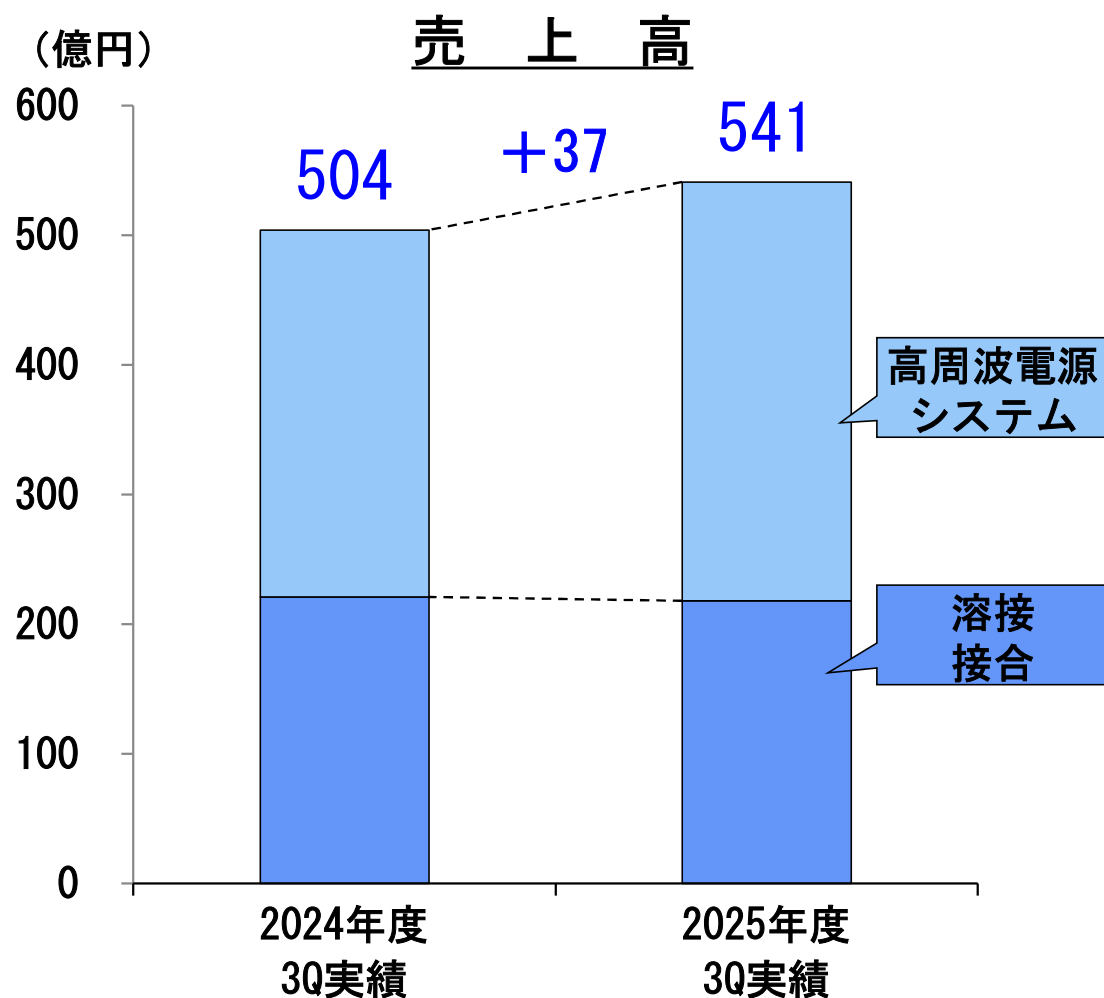


「ファクトリーオートメーション」地域別売上高

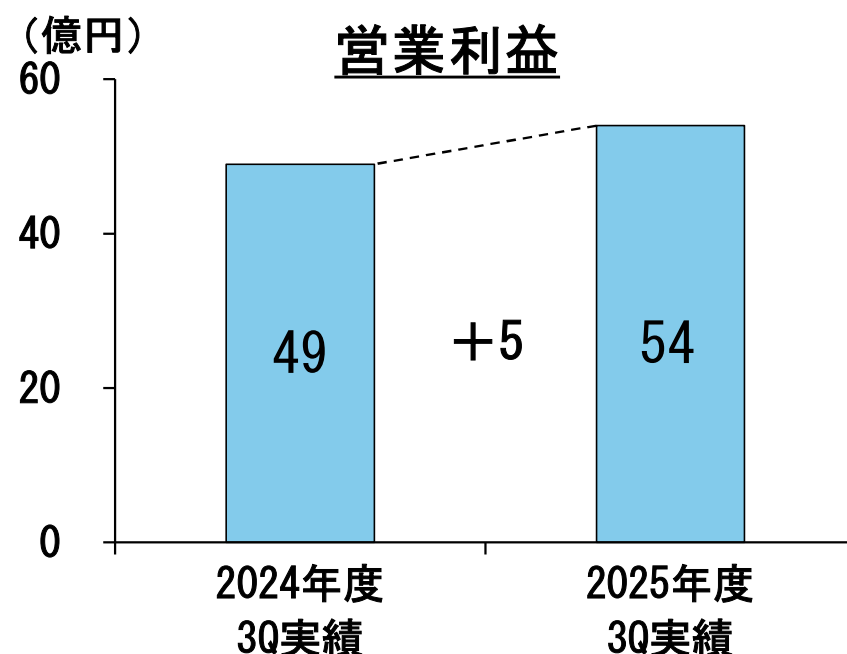


- 国内・欧州では投資抑制の傾向が続いたが、その他地域は増加

「マテリアルプロセッシング」セグメント 売上高・営業利益



- ・ 高周波電源システムは生成AI用途の先端半導体関連投資の増加により需要が高水準で推移
- ・ 売上高増加に伴い増益



通期業績予想

(単位：億円)

| | | 2024年度 実績 | | 2025年度 予想 | | 前年度比 | | 2025年度 当初予想比 | |
|---------------------|----------------|--------------|-----|--------------|-----|------|--------|-----------------|-------|
| | | ① | | ② | | ②-① | 増減率 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | | 2,263 | | 2,350 | | +87 | +3.8% | +50 | +2.2% |
| 1 | エネルギーマネジメント | 1,208 | | 1,270 | | +62 | +5.1% | +80 | +6.7% |
| 2 | ファクトリーオートメーション | 327 | | 330 | | +3 | +0.9% | -10 | -2.9% |
| 3 | マテリアルフローセシング | 726 | | 750 | | +24 | +3.3% | -20 | -2.6% |
| 営業利益 | | 7.1% | 161 | 7.9% | 185 | +24 | +14.4% | +15 | +8.8% |
| 経常利益 | | 7.6% | 171 | 8.1% | 190 | +19 | +10.6% | +15 | +8.6% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | 5.3% | 119 | 6.0% | 140 | +21 | +17.0% | +10 | +7.7% |

2026年度中期計画 最重点方針

目指す姿

社会課題の解決に積極的に貢献する企業

基本方針

社会課題解決に資する開発の領域拡大

- 脱炭素社会の実現
- 労働力不足の解消
- デジタル化の推進

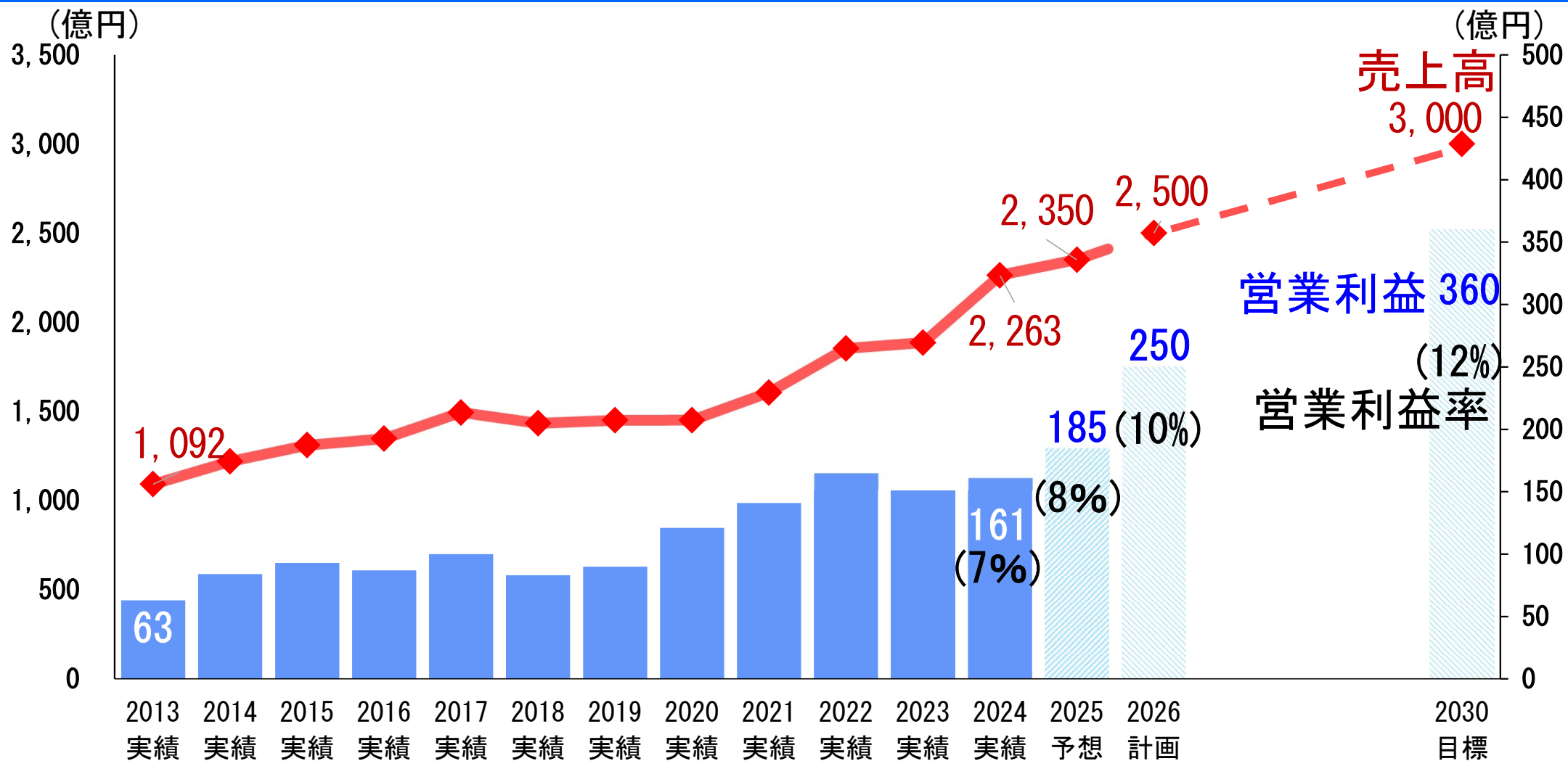
社会課題解決に資する開発の領域拡大テーマ

(単位: 億円)

| 社会課題 | 主な開発テーマ | 売上高目標 | | | ... | 2030 年度 |
|----------|----------------------|------------|---------------------------|------------|-----|------------|
| | | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | | |
| 脱炭素社会の実現 | 次世代配電関連機器(直流配電等) | 150 | 230 (+40) [※] | 300 | | 550 |
| | 再エネ自家消費蓄電池システム | | | | | |
| | 系統用蓄電池システム | | | | | |
| | 充電インフラ機器・システム | | | | | |
| | 大容量需要家向け受電システム | | | | | |
| | E V 軽量化対応接合機器 | | | | | |
| 労働力不足の解消 | 多品種・少量生産に適したロボットシステム | 60 | 70 (△20) [※] | 150 | | 250 |
| | 協働ロボットの品揃え強化 | | | | | |
| | 脱技能化接合機器 | | | | | |
| デジタル化の推進 | 半導体製造装置向け省エネ電源 | 90 | 120 | 250 | | 450 |
| | // 省スペースロボット | | | | | |
| | チャンバククリーニング向けプラズマ源 | | | | | |
| 合 計 | | 300 | 420 (+20) [※] | 700 | | 1,250 |

※ () 内の数値は当初計画との比較

中期計画業績目標



ステークホルダーへのリターン ～「幸せの目標値」に沿ったバランスの取れた利益還元～

| | 2023年度実績 | 2024年度実績 | 2025年度予想 | 2026年度計画 |
|-------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| 売上高 | 1,885億円 | 2,263億円 | 2,350億円 | 2,500億円以上 |
| 営業利益率 | 8.0% (151億円) | 7.1% (161億円) | 7.9% (185億円) | 10%以上 (250億円以上) |
| R O E | 13.3%※ | 8.8% | 9.8% | 12%以上 |

※負ののれん発生益等を除くROE：9.2%

ダイヘングループの目的

“みんなの幸せ” (1985年/第5代社長 小林啓次郎) **同時達成”**

お 客 様

- ・「ならでは製品<社会課題解決型製品>」創出のため売上高の6%を開発費投入
- ・「ならでは製品<社会課題解決型製品>」の売上高構成比率40%以上

社 員

- ・3回目の賞与 対前年度増益率に応じて支給…5%以上増益：2.0ヵ月(上限)
- ・株式報酬制度

株 主

- ・配当性向30%以上

資 材 取 引 先

- ・コストダウン成果の50%還元

地 域 社 会

- ・地域の子供達の福祉のため営業利益の1%を寄付
- ・環境配慮製品構成比率80%以上

「幸せの目標値」

1 社会課題解決に資する開発の領域拡大

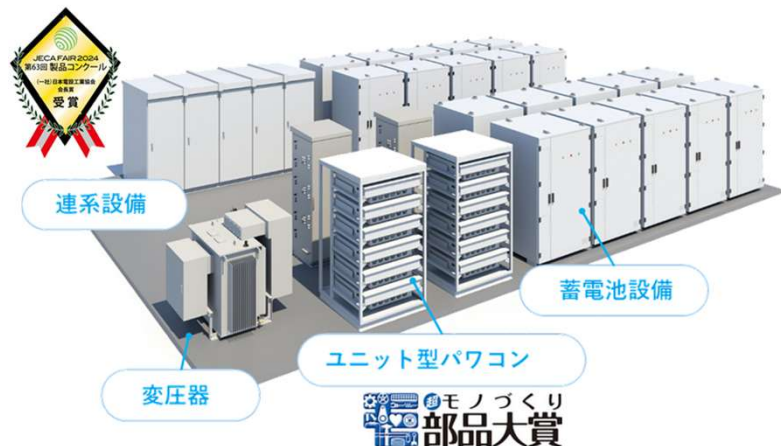
脱炭素社会の実現

【市場環境】

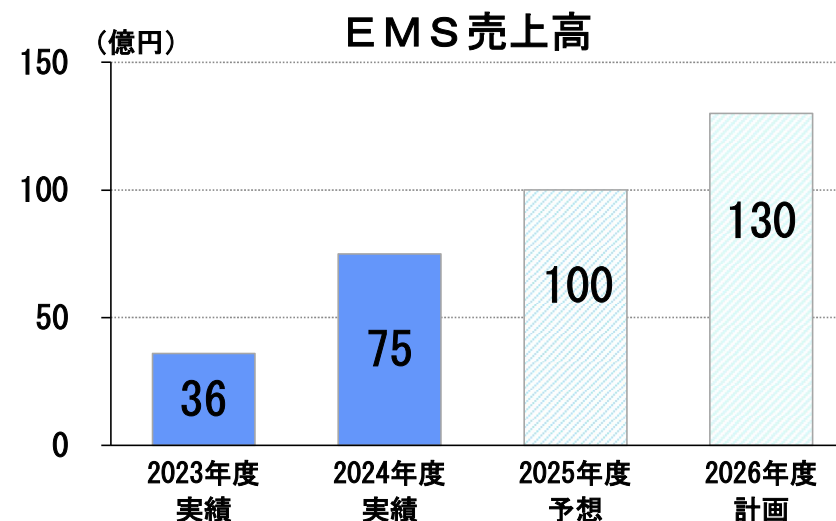
- ・ 需給調整市場にて早期に運用可能な系統用蓄電池の需要が増加
- ・ 太陽光発電所の出力抑制対策として蓄電池の追加併設ニーズが高まっている

【系統用蓄電池の納入拡大】

- ・ 弊社蓄電池システムの低騒音・搬入容易性が高く評価され、特に高圧蓄電所向けの受注・売上が大幅に増加



大容量蓄電池システム (2MW/8MWh)



- ✓ 分割して搬入が可能
- ✓ 低騒音設計⇒近隣に対する対策の費用低減
- ✓ 廃棄物処理の広域認定取得済み
- ✓ CATL社と定置用蓄電池の供給契約を締結 (2025年8月)
- ✓ IoTセキュリティ制度「JC-STAR」適合ラベル取得
- ✓ **令和7年度新エネ大賞「審査委員長特別賞」受賞**



※JC-STAR (セキュリティ要件適合評価及びラベリング制度) : JC-STARは経済産業省の監督の下、要件への適合性を第三者評価により確認・可視化することを目的とした制度

1 社会課題解決に資する開発の領域拡大

脱炭素社会の実現

防災用蓄電池パッケージを市場投入 (2025年12月)

【開発の背景】

- ・消防法・建築基準法に基づく非常用発電機(全国約20万台)
大半が非常時のみ稼働するディーゼル発電機
- ・消防法関連告示の改正(2025年7月30日発布)により、
常用・非常用兼用の電源としてリチウムイオン蓄電池
設備の設置が可能となった(非常用発電機の置換え
需要※が期待できる) … 消防認定取得予定(国内初)

※市場規模800億円/年(当社独自試算)

【特長(非常用発電機との比較)】

- 1 設備投資効果の向上
 - ・常用時にもピークカット等で活用し、電気料金を削減
 - ・メンテナンスの費用を削減
- 2 安心・安全な稼働
 - ・騒音、振動、黒煙の対策費用・手間を削減
 - ・常時活用により、万が一の不始動や異常停止を予防



電力需要の増加に伴う生産能力増強（エネルギーマネジメント）

【市場環境】

- ・データセンター・半導体工場の新設等に伴う受電設備や変電所の増設が見込まれる
⇒産業用変圧器や変電所向け大形変圧器の引合・受注が順調に増加、今後もこの傾向は継続する見通し

【産業用油入変圧器の生産統合（四変テック）】

- ・ダイヘン電設機器（大阪）で生産する産業用油入変圧器の生産を四変テック（香川）へ統合
- ・ダイヘン電設機器の工場跡地はデータセンター向けモールド変圧器増産等の有効活用を検討中



産業用油入変圧器
新工場イメージ

従来比**1.7**倍
(2026年10月新工場完成)

【大形変圧器工場内に新工場建設（三重工場）】

- ・電力会社の更新投資に加え、再エネ拡大やデータセンター等の建設増加に伴う変電所機器の需要増
⇒大形変圧器の生産能力を2倍に増強



三重事業所
工場新設予定地

- ・2026年度：従来比**1.2**倍（設備・人員の増強）
- ・2027年度：従来比**1.5**倍（第1期新工場完成）
- ・2029年度：従来比**2.0**倍（第2期新工場完成）

1 社会課題解決に資する開発の領域拡大

労働力不足の解消

【市場環境】

- ・人手不足や賃金上昇を背景とする生産自動化需要は底堅く、中長期的に製造業向けロボット市場は拡大する見通し

【当社の取り組み】

- ・ロボット活用の裾野を広げる製品・ソリューションを拡充
⇒ グローバルワイドで販売拡大

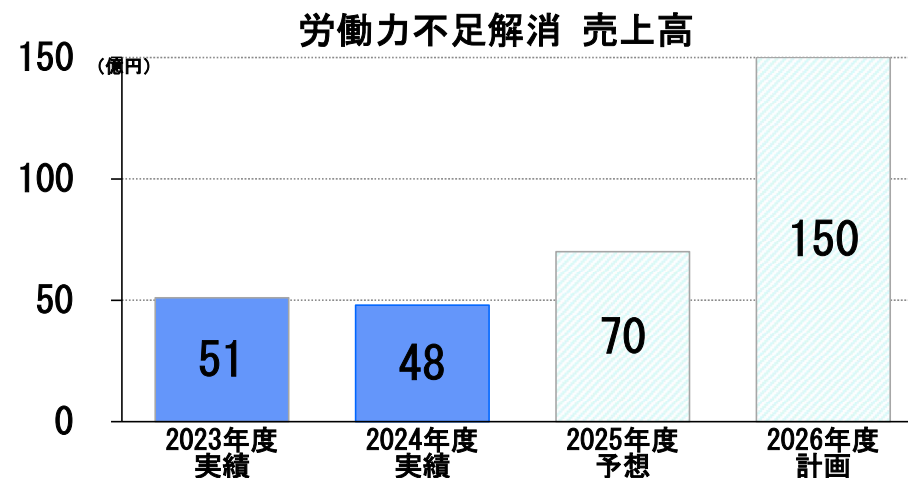
搬送ロボット

- ・業界トップ水準の高精度・コンパクトサイズ(同クラス比)を実現し適用シーンを拡大
- ・リフトアップやけん引など様々な搬送に対応

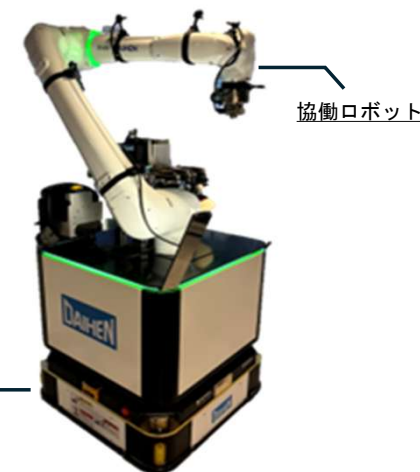
「第68回(2025年)十大新製品賞「本賞」を受賞」

移動ロボット

- ・協働ロボットと搬送ロボットの両方を持つ当社独自の製品(ツールチェンジャーで1台複数役対応)
- ・工場内を自由に移動し様々な作業を自動化
⇒国内・欧州を中心に自動車・産業機器業界での拡販を狙う



500kg可搬搬送ロボット



協働ロボット

搬送ロボット

移動ロボット

1 社会課題解決に資する開発の領域拡大

デジタル化の推進

【当社の取り組み】

高周波電源システム

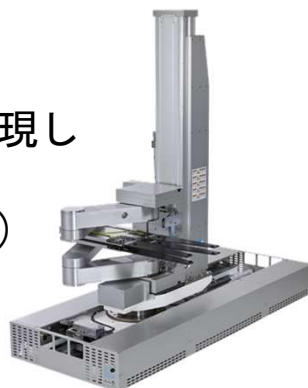
- ・エッチング工程において深堀り・微細化を省電力で実現する当社独自の新しい電源システムを最先端メモリ・ロジック向けに展開
- ・市場拡大が見込まれるF0PLP※などの半導体製造の後工程にも当社製品納入

先端パッケージ向け搬送ロボットの市場投入加速

- ・半導体ウエハ搬送用ロボットに加え、F0PLP※をはじめとする先端パッケージ分野における各工程での搬送用途向け製品ラインアップ拡充

大気ロボット (2025年6月)

- ・低振動、低床・高ストロークを実現し幅広い搬送エリアに適応
- ・業界トップクラスの高可搬(20Kg)



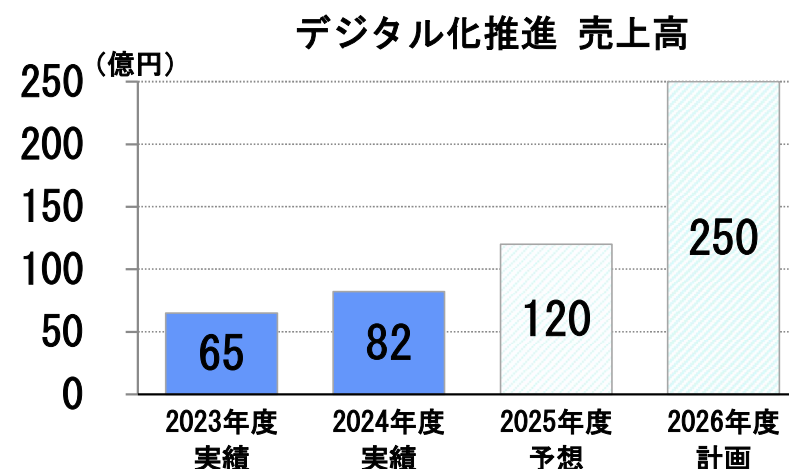
500/600mmパネル搬送

真空ロボット (2025年9月)

- ・独自の制振制御による高速・低振動・高精度搬送
- ・スカラ型ロボット開発により省スペース化



300mmパネル搬送



「2025年12月「SEMICON Japan 2025」に出展し国内外の大手装置メーカーから高い評価を受け新規引合を獲得」

※F0PLP (Fan-Out Panel Level Package)

先端実装技術の1つで、半導体チップとプリント配線基板の間をつなぐ配線層を角型の基盤の上に形成することで小型化と高集積化を実現する技術

2 代理店販売の革新と新領域の販売拡大

標準製品拡販の戦略

各機器の特長を統合した溶接機の決定版「Welbee The Short Arc」シリーズ

【第1弾】（2024年度投入）

幅広い業種で使用する350Aクラス

（5機種⇒1機種）

- ・ハイエンド機をリーズナブルな価格で提供
⇒国内市場シェア向上（56%⇒59%）
- ・同クラス機の在庫70%圧縮
- ・生産自動化で製造工数減（6千時間/年）を見込む



【第2弾】 2026年1月市場投入

厚板溶接向けの高出力500Aクラス

（25機種⇒2機種）

- ・造船・鉄骨・橋梁・業界などの大型構造物に適した溶接安定化機能で脱技能化に貢献
⇒更なるシェア向上
- ・第1弾の生産自動化の水平展開による収益性向上

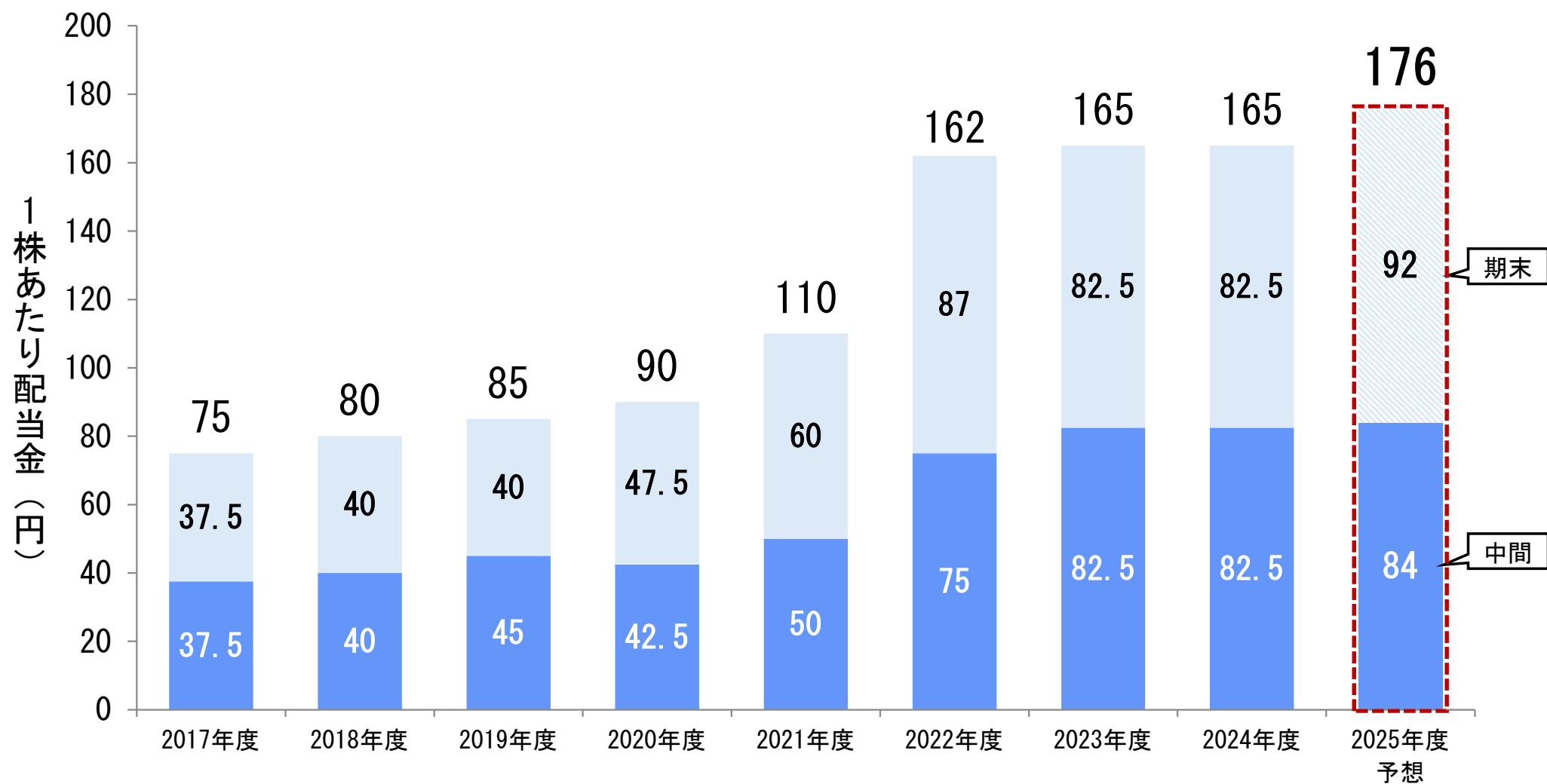


自社でのCO2削減の取組みと新ビジネス創出

- ・ 国内外の主要拠点に太陽光発電及び当社製蓄電池パッケージを導入
 - ・ 自社内だけでなく サプライヤを含めた電力融通の仕組みを開発、順次導入
- ➡ 自社の取組みを通じて新たなビジネスモデル確立へ



配当金の推移



将来予想に関する注意事項

- ・ 本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し等の将来に関する記述が含まれております。
これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。
- ・ なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。
 - － 主要市場における経済情勢及び需要・市況の変動
 - － 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - － 為替相場の変動
 - － 原材料価格の相場変動
 - － 競争企業の製品・サービス、価格政策、M & Aなどの事業展開
 - － 弊社の提携等に関するパートナーの戦略変化